

平成 24 年度事業計画

総 括

平成 24 年度の重点項目を以下の通りとする。

1. 50 周年に向けた中長期目標達成のための施策検討

2. 公益社団法人としての運営、組織見直しおよび強化

本連盟は低コスト・最小限の事務局機能で、多くの事業をこなすために、業務執行理事や各本部部員の献身的な活動によって成り立ってきた。しかしこのために業務が分散することから管理が曖昧になることがあり、内部統制という視点で業務遂行の環境を改善する。

①総務部を中心に、より適切な事務局運営を行う

- ・新就業規則に基づく適切な人事・労務管理と、業務分担の明確化
- ・諸規則の整備と徹底
- ・適切な会議運営と議事録保存、検索機能の整備
(グループウェアによる会議交通費削減を含む)
- ・機密保持、個人情報保護体制などの見直し

②管理部を中心に、決裁における適切なワークフローの整備

- ・決裁機構の明確化と、グループウェア等による電子稟議方式の構築
- ・予算執行における、より厳密な管理
- ・法定書類、契約書類、往復文書、などのより厳密な管理

③企画委員会、総務部を中心に、加盟団体強化のための加盟団体規約の適正化支援

④国民に向けた情報発信(DDD の見直しなど)

3. ダンス人口の高齢化と減少への対応

- ①普及部、マーケティング本部を中心に、ダンススポーツ類似スポーツとの連携による相乗効果、若年層の取り込み施策の検討
- ②ヘルスプロモーション委員会を中心とする、ミドル層の職場へのアプローチ
- ③学連 OB/OG 向け企画等による 20～30 代ダンス人口の確保
- ④ジュニア発掘、強化、学校教育への参入努力

4. 選手強化策の抜本的見直し

- ①ジュニア選手強化に重点を移していく
- ②2013 年東アジア大会でのメダル確保施策
- ③コーチングスタッフ制度の導入と、メインコーチとの協力関係構築
- ④選手強化部とダンススポーツ医科学プロジェクトによる科学的アプローチ

5. その他重点施策

- ①DTC の活用推進と維持経費カバーのための思索実施
- ②**財政基盤の強化** (物販による収益事業の拡大など)
- ③環境委員会の稼働
- ④WDSF 方針による PD 部門の検討
- ⑤WDSF と連携したダンススポーツ類似スポーツの組織化
- ⑥新審判基準の深化と国際貢献
- ⑦競技会の品質向上に向けた施策
- ⑧会員拡大その他、従来よりの継続業務の適切な実施など

以上。

各本部・委員会

普及本部

普及本部(フィガー・プロジェクトを含む)では、下記に示す諸施策を推進する。

1. 普及部

会員拡大委員会と連携を図りダンススポーツ普及活動活性化を促すための施策を全国規模で展開する。

- (1) 全国都道府県連盟の活動の把握と情報の交換
- (2) ダンススポーツ普及と会員拡大を図るための「普及競技会」開催促進
(普及競技会にはダンススポーツ類似スポーツとのコラボレーションを含めて検討)
- (3) ダンススポーツ普及を図るための各種イベント実施の調整とその促進
- (4) 全国都道府県連盟のイベント情報の収集・調整による、JDSFホームページのイベントコーナーへの情報提供
- (5) 広報媒体(DDD、雑誌等)提供用記事収集と調整

2. 指導部

新規指導員養成講習会とそれに伴う選考試験、並びに公認指導員研修会を全国レベルで実施し、公認指導員の充実と指導技術向上を図る。公認指導員資格更新研修では従来のダンス技術を主体としたものにとどまらず、スポーツ指導者に必要とされる知識および指導員の心得、ほか技能研修を広く取り入れ、会員拡大を踏まえた普及についての指導内容の充実を図る。

資格取得後3年以上経過したC級指導員に対してはB級指導員への昇級選考試験を引き続き実施する。また、B級指導員からA級指導員への昇級試験を実施する。

さらに、公益財団法人日本体育協会(日体協)の競技別指導者制度に連携した日体協公認ダンススポーツ「指導員」の養成等を行うとともに、「教師」区分の実施について引き続き検討する。

- (1) 新規公認指導員選考試験とそのための講習
- (2) 公認指導員研修
- (3) C級公認指導員のB級公認指導員への昇級試験
- (4) B級公認指導員のA級公認指導員への昇級試験
- (5) 日体協スポーツ指導者育成事業と連携した日体協公認ダンススポーツ「指導員」養成
- (6) 全国指導員講師養成講座実施
- (7) 公認指導員講習会教本(改定本作成)

3. 技術認定部

技術認定制度は、平成17年度から平成26年度までの全国展開構想10年間の8年目を迎え、定着期(後期3年間)の1年目となることから、非会員への受験機会の拡大や選手経験者への受験機会の提供等社会のニーズにマッチする仕組みとなるように更なる改善に努める。

また、グレードコースからハイグレードコースまで一貫したシステムであることから、非会員を含む受験者満足の向上に連動する有機的な学習システムとして全国展開を図る。

(1) 目標

- ①技術認定制度のJDSF会員の認識度、8割以上
- ②認定カードの発行区分数、2500区分(G2100区分、HG400区分)以上
- ③新規受験者、150人(50回×3人)以上
- ④技術認定ハイグレードに挑戦する公認指導員又は選手経験者、50人以上
- ⑤国民向けの新資格制度として、(仮)ダンススポーツ検定の検討

(2) 目標達成のための戦略

- ①公益法人としてのスタンスによる活動の促進
- ②グレードコースの着実な展開による普及促進と受験者層の底辺拡大
- ③ハイグレードコースの発展に向けた多岐にわたる誘導施策の展開
- ④技術認定会の先進事例の情報共有と水平展開
- ⑤制度の充実と拡張

(3) 事業展開方針

- ①各ブロックや都道府県連盟へ技術認定会開催計画策定要請
- ②技術認定ハンドブック2012の発行
- ③グレードコース未実施の加盟団体に向けた出前講座
- ④特例認定会等の制度拡充に関する啓発(公式サイト、指導員更新研修会)
- ⑤技術認定員資格の取得と更新に向けた支援
- ⑥技術認定会開催スキルの共有に向けた各種支援
- ⑦審査基準や重要指導事項の標準化と普及展開
- ⑧先進県のモニタリングと制度の充実拡張に向けた各種検討

4. フィガー・プロジェクト

フィガー・プロジェクト活動(指導部、技術認定部、競技部合同)を昨年に引き続き実施する。

- (1) JDSFオフィシャル・フィガーの内容精査
- (2) JDSF 標準アマルガメーション I (技術認定グレードコースを含む。)のレビュー
- (3) JDSF 標準アマルガメーション II (技術認定ハイグレードコース)のレビュー

競技本部

競技本部は5つの専門部に分かれて活動し、その各部の連携をはかり、以下の事業を行う。

- 1 DSCJ全日本統一級競技会の推進を図り、実情に基づく改善策を検討する。
- 2 JDSF主催競技会の支援、競技会の改善に関して検討する。
東京オープン、三笠宮杯全日本選手権、都道府県対抗全国大会、グランプリ、ブロック選手権などへの協力支援及び整備
- 3 審判員、競技長、採点管理長、システム運用資格者、チェッカーなど競技資格者の質の向上を図り、資格者の管理を行う。
- 4 国際的レベルに達する選手及びジュニア選手の育成に努める。
- 5 ジュニア層の底辺拡大と競技力向上を図る。
- 6 関連各本部、委員会への協力

1. 競技部

DSCJ全日本統一級競技会の推進及び競技会運営が円滑に行えるように以下の事業を行う。

1. JDSF競技関連規程の問題点の整備
2. DSCJおよび各ブロックと協調して、JDSF公認競技会の開催推進、調整および支援、公認認可手続き
3. 競技資格部の競技長講習会およびチェッカー講習会などの開催に協力
4. 派遣選考会およびグランプリの調整、支援、ダンススポーツランキングの集計、広報
5. 級体系の見直しを含めて、DSCJ競技規則、昇降級規程整備の検討
6. 会員拡大を目的とした、生涯スポーツ系の競技会(普及競技)開催推進支援

2. 審判部

競技会への審判員派遣、公認審判員登録、審判員研修など以下の事業を行う。

1. JDSF公認承認競技会への審判員派遣
2. 新規JDSF公認審判員登録手続き
3. 審判員研修会の実施
4. WDSF公認審判員登録手続きと派遣手続き
5. その他

* 審判員活動に関わる記録の整備・保管を行う。

* 新審判基準策定、新審判方式実施などに関して必要な協力と提言を行う。

3. 選手強化部

ジュニア選手の育成に力を入れるとともに、来年度の東アジア大会にてメダルを獲得できるように努力する。各強化選手に担当コーチングスタッフを設定し、選手、メインコーチとコミュニケーションを図り、トレーニング計画、環境整備などのサポートをする体制で、国際的に活躍できる選手の競技力向上、育成強化を図る。特にジュニアの育成強化に注力する事業を行う。

1. メインとなるコーチを決め、目標を立てトレーニング計画をたてて育成する体制を整える。
2. 強化選手、準強化選手を認定し、強化を図る。
3. 選手と覚書を締結し、権利と義務を明確にする。
4. 強化合宿をジュニアは年2回、アダルトは年1回開催する。
5. 特別練習会を年2, 3回開催する。
6. 科学トレーニングの推進

(ダンススポーツ医科学研究プロジェクトと共同でイメージトレーニングツールの実用化)

4. 競技資格部

1. 講習会及び研修会を各ブロックごとに開催し、競技資格者の資質の向上及び資格更新制度の適正な運用を図る。
2. 競技資格部の承認を得て、都道府県連盟が自らの予算で講習会(又は研修会)を開催することを奨励する。
3. フィガーチェッカー講習会を開催する。

5. ジュニア育成部

ジュニア層の底辺拡大と選手強化部との連携を図り、競技力向上の事業を推進するため、以下の事業を行う。

1. ジュニア指導員の確保、資質の向上を図るための事業
 - a 新規ジュニア指導員養成講座の開催

- b ジュニア指導員の研修会
 - c ジュニア指導員検定
 - d ジュニア指導員講習会・研修会のための講師養成
2. ジュニア競技会開催と開催推進事業
 - a 第7回オールジャパンジュニアダンススポーツカップ 2012in茨城
 - b 三笠宮杯での第9回全国子どもダンススポーツ大会
 - c 各都道府県でのジュニア競技会
 3. ジュニアアスリートクラブの活動、運営
 - a 会員登録、会員の成績管理など
 - b 研修会、交流会、ジュニア合宿体験など
 4. 認定ジュニアクラブ(サークル)への情報発信
 5. 学校教育検討委員会との連携活動

国際本部

国際本部は WDSF,ADSF によるオリンピック関連事業の一翼を担うべく、各国競技団体との協調の下、国際的に、特にアジアにおいてダンススポーツ普及活動を推進する。

- ① WDSF、ADSF 事業への協力。
- ② WDSF 選手権、WDSF 各種競技会等への選手や役員の派遣手続。
- ③ 国内事業における海外関係への担当、協力、助言。
- ④ Olympic 関連イベントの準備、活動に協力する。

具体的には次のとおりである。

- ① WDSF、ADSF 総会等に参加し、また、e-mail 等による各種情報伝達により国際事業への協力、企画を行うとともに、国内への案内を行う。
- ② 海外競技会選手派遣部(選手派遣部)を中心に WDSF 競技会に関する案内と派遣手続、選手への助言を行う。選手派遣については世界スタンダード選手権、世界ラテン選手権、世界 10 ダンス選手権、世界シニアスタンダード選手権、世界シニアラテン選手権、世界ユーススタンダード選手権、世界ユースラテン選手権、世界ユース 10 ダンス選手権、世界ジュニアスタンダード選手権、世界ジュニアラテン選手権、世界ジュニア 10 ダンス選手権、アジア選手権、アジアシングルダンス選手権、アジア太平洋選手権、および WDSF 関連競技会等への派遣手続を行う。
- ③ WDSF Grand SLAM (東京オープン)、WDSF Open 競技会等での海外関係事業,そのほか各加盟団体からの依頼による講師や選手の海外からの招聘活動を行う。

情報システム本部

情報システム本部では、JDSF情報システム(データベース)をもとに、正確で迅速な情報提供ならびに加盟団体との各種申請・登録手続きのWeb処理による事務処理の迅速化、ペーパーレス化を推進する。

特に競技会、指導員および認定会関連の事務処理はますます煩雑化・複雑化していくなか

で高い精度が、求められている。今後も加盟団体の事務負担の軽減を図るために関連システムの開発と拡充を進める。

また、会員のみならず広く国民誰でもが競技会、パーティー、サークル情報等の情報を検索できるように、ホームページその他のしくみを充実する。

<平成24年度整備目標>

(1) 公式ホームページの充実と機能強化(項目・検索追加)

- ① 競技会開催情報検索システム
- ② 成績・昇級情報提供
- ③ 公認サークル照会・検索システム

(2) 携帯電話・スマートフォンへの対応検討

(3) インターネットによる物販システム

(4) 指導員、認定会申請システム

(5) 新JDSF総合情報システムの設計

企画委員会

企画委員会は、JDSF の中長期的な方向を検討・企画し、また通常の業務組織では対応しにくい課題を担当するが、平成 24 年度の重点実施事項は、以下の通りである。

1. ジュニア選手層の拡大

- (1) H23年度に立上ったジュニア強化制度の実行支援
- (2) 外部会議である「ジュニア・ダンススポーツ協議会」の運営

2. PD(プロフェッショナル・デビジョン)の企画検討

- (1) WDSFの指導に沿って、JDSF内PDの組織化の検討
- (2) WDSF・PD競技会の開催検討

3. JDSFの中期的な組織のあり方の検討

JDSFの会員組織は、認定サークルを末端組織と位置づけているが、会員及びサークルの多様化により、現状の会員制度だけでは十分な対応ができない問題が考えられる。

会員制度検討WGを設置して検討を開始する。

- (1) 個人会員制度の検討:個人登録選手、PD登録選手、パーティーなど限定活動範囲の会員の扱い
- (2) Aリーグ部の検討

4. 規程類の見直し、都道府県連盟の定款変更支援

5. その他、通常業務組織では対応しにくい課題の検討

学校教育検討委員会

学校においてダンススポーツ、ダンスうんどう などが授業に取り入れられるように以下の事業を行う。

- 1 学校でのダンススポーツ授業が行われるような指導法及び体制の研究
- 2 生徒にダンススポーツの指導を実施した指導者への支援

- 3 学校の先生などにダンススポーツの指導を実施した指導者への支援
- 4 体験学習への支援
- 5 学校より要請にあった場合に備えて、対応できる指導員の育成
- 6 指導者などへ教材の支援

アンチ・ドーピング委員会

以下の事業を実施する。

1. toto助成によるドーピング検査の実施
28検体を実施する予定
2. アンチ・ドーピング啓発事業
2012.8.12全日本ジュニアカップにおいてアンチ・ドーピング啓発を目的としたブースをJADA(日本アンチドーピング機構)と共催で出展する。
対象者:ジュニア選手、指導者、家族
3. アンチ・ドーピングについての相談対応
4. 関係団体(日本スポーツバトン協会など)へのアンチ・ドーピング活動支援

会員拡大委員会

ダンススポーツの普及活動促進の為、ダンススポーツ知名度を高める活動を行う。

1. ダンススポーツ啓発活動
 - 1)PR活動ポスター作製
 - 2)会員拡大キャンペーンポスター作製
(B2サイズ カラー印刷5,000枚)年4回
2. 普及事業の促進
 - 1)初心者講習会・技術認定会・各ブロックダンスパーティの開催
3. 各ブロック会員拡大委員会の開催
4. 本部会員拡大委員会の開催

新審判基準委員会

新審判基準委員会は、ダンススポーツの審判の客観化のための活動を行っており、これまで国内全てのグランプリ競技会で新審判方式を実施している。

また、WDSF にも日本発の新審判方式を提案し、採用されているほか、アジア地域でのWDSF グランドスラム大会においては日本のシステムならびに運用者を派遣するなど、国際貢献を行っている。

平成24年度の重点実施事項は、以下の通りである。

1. 減点方式の改良とともに、昨年までテストを続けてきた Technical Element Score のうち

GOE(Grade of Execution)と呼ぶ評価軸を具体的に採用した実施規程(Rev.2.3)を実施に移す。

2. 競技会後の審判員 Review、年に1度もしくは2度の審判員研修を行い、ばらつきの原因の究明、反省を行い、客観化を向上させる。
3. 昨年度の関東甲信越ブロックの選手権のように、グランプリ以外の一般競技会での簡易方式の実施をすることにより、普及を図る。

DTC 運営委員会

DTC の活用促進と、維持経費をできるだけカバーするため、以下のような活動を行う。

1. グループレッスン・カップルレッスン
 - ①現在週に2回のグループレッスンの回数増加
 - ②月1回のダンスパーティーの開催(レッスンとアテンダント付き)
 - ③現在のスタンダード専任コーチの他、ラテンの専任コーチを招聘
2. 自由練習
 - ①場所的な不利をカバーするための施策の検討(無料ワンポイントレッスンサービスなど)
 - ②安価なビデオ撮影サービス
3. 外部貸出
 - ①加盟団体、認定サークル、ダンス関係団体のほか、他スポーツ団体への貸出し
4. 内部利用(JDSF主催行事)
 - ①DTC 設立の主目的である選手強化事業(強化練習会、短期合宿など)
 - a. 選手強化練習会(対象:強化選手、学連、ジュニア)
 - ②指導員研修会、講習会
 - ③ジュニア育成関連研修会
 - ④新審判関連研修会
 - ⑤その他、専門部による研修会等
 - ⑥ビデオ教材撮影
5. 広告宣伝
 - ①行事のチラシ作製、ホームページ掲載など
6. 施設維持
 - ①フロアメンテナンス(専門業者指導によりワックスがけ他フロアを良好に維持する)
 - ②音楽CD、その他必要設備・機材の購入・補填
7. 中長期的な採算向上のための諸施策の検討

ヘルスプロモーション委員会

1. ヘルスプロモーション委員会の設置目的

ダンススポーツ人口減少抑止策の一つとして、会員以外へのダンススポーツ普及のための抜本的戦略の開発と全国的な普及展開を図り、国民のダンススポーツに対する理解と認識を高め、もってダンススポーツ愛好者の増加を促進する。

2. 目標(めざす状態)

平成24年度においてめざす状態は以下の通りとする。

(1) 目標(めざす状態)

- ① 国民の健康増進に関する意識とこれを実現するための行動意欲、特にダンススポーツを中心としたリズム体操に対する潜在ニーズや体験コメント等のデータを集約し、一定の傾向分析が行われている状態
- ② サービスを実際に提供していくこととなる特定の領域を対象として健康増進プログラムを開発し、又は発掘し、一定のテストが行われている状態
- ③ 開発又は発掘した健康増進プログラムを全国に展開する仕組みや方法等について上位方針が確立

3. 平成24年度の目標達成のための事業展開方針

目標を達成するため、以下に掲げる事務、事業を実施するものとする。

- ① 健康増進プログラムの開発又は発掘に必要な調査
- ② ビデオ教材の作成
- ③ 特定の事業所での実証テストと関連業界への展開
- ④ 協賛企業とのコラボレーションによる実践
- ⑤ 全国の指導員、サークルへの普及展開
- ⑥ ダンススポーツ公益事業展開戦略への提言

ダンススポーツ医科学研究プロジェクト

ダンススポーツを医・科学的視点から解析し、アスリートの技術力向上をはかるプロジェクトを立ち上げる。

24年度はつぎの項目を主体に情報収集と調査を行う。

- ① ダンススポーツの運動分析(モーションキャプチャー、フォーム分析、時間分析、スチックピクチャー、筋骨格運動分析)
- ② ダンススポーツのバイオメカニクス(力学、生理学、解剖学、運動学習・制御理論、生物学・工学・医学)
- ③ ダンススポーツの生理学(体力、メンタル、けが予防)
- ④ トレーニング(体力トレーニング、メンタルトレーニング)
- ⑤ その他スポーツに関する医・科学的研究

環境委員会

JOC は、環境専門委員会を設置して環境保全活動に取り組んでいるが、各加盟団体に対して環境活動への取り組みを促している。これを受けて当連盟に環境委員会を設置し、環境保全活動に取り組むこととした。

平成24年度の重点実施事項は、以下の通りである。

1. JOC/JDSF 環境横断幕の製作と各イベントでの張出し及び JDSF 環境保全チラシの製作と加盟団体への配布
2. JDSF 及び加盟団体のイベントでのごみ分別・持帰りの啓発
3. 事務所・DTC での紙及びコピーの削減、環境保全の啓発活動

マーケティング本部

1. マーケティング部

1. スポンサーの維持・獲得のための活動
2. 関係団体との協業イベントの検討・実施
3. マスコミへの露出活動

2. 事業部

1. 物販による収益事業の拡大
 - ・協力企業グッズの販売
 - ・オリジナルグッズの開発と販売
2. CD 製作プロジェクト
 - ・自由使用のできる CD の製作:
オランダ Dancelife 社との提携によるシリーズ”DanceSport”Vol.11 の H24 年度内販売活動、及び H24 年 10 月リリースの Vol.12 の制作、販売を行う。
3. 公益社団法人名刺の普及

事務局

1. 総務部

1. 各種業務規程等の整備
2. 新就業規則に基づく人事関連運営の適正化
3. 加盟団体規約(都道府県連盟規約)適正化の推進
4. 会議等の適切な運営・議事録管理
5. 加盟団体に対する的確な情報伝達
6. 個人情報保護体制の見直し

2. 管理部

1. 公益社団法人としての適正な内部統制の実現
グループウェア導入と電子的ワークフローの実現(電子稟議決裁の検討)
2. 経理規程等の整備
3. 予算管理及び経費支出の適正化
 - ・各部門責任者による予算執行状況の把握推進
 - ・各部門責任者の判断に基づく経費支出への統一
 - ・経理処理の適正化、明確化の推進
 - ① 会計単位(公益、収益、法人)区分経理の適正化
 - ② ブロック経理処理方法の統一

3. 広報部

1. JDSF 会報誌 DDD の発行、その他広報活動
2. ホームページ WG の活動
 - ・JDSF ホームページ関係の開発維持管理
 - ・JDSF メール処理の負荷対策
 - ・JDSF サーバ入れ替えリプレイスプラン
 - ・IPv6対策
3. メイン競技会のマスコミ認知活動、マスコミ露出状況の管理

平成 24 年度 JDSF 主催競技会開催予定

H24・4・15	ダンススポーツグランプリ in 大阪(S)	池田市五月山体育館
H24・5・4	ダンススポーツグランプリ in 仙台(L)	仙台市青葉体育館
H24・7・22	ダンススポーツグランプリ in 静岡(L)	静岡グラシップ
H24・8・12	第7回オールジャパンジュニア・ダンススポーツカップ	茨城県取手市
H24・8・19	ダンススポーツグランプリ in 北海道(S)	札幌市北海きたえーる
H24・10・28	第32回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権 三笠宮杯全日本選手権スタンダード 三笠宮杯全日本選手権ラテン JOC ジュニアオリンピックカップ全日本ダンススポーツ選手権ジュニア 全日本ダンススポーツ選手権ジュニア 全日本ダンススポーツ選手権トルシニア 第9回全国子どもダンスうんどう大会	駒澤オリンピック公園総合運動場体育館
H24・11・4	第20回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会	岐阜県
H25 (未定)	全日本選手権 10 ダンス	
H25・3・10	第15回東京インターナショナルオープン・ダンススポーツ選手権 WDSF オープン・スタンダード WDSF オープン・ラテン U-23 オールジャパン・ダンススポーツカップ	大田区総合体育館